

よもやま話

分水良寛史料館
0256・97・2428
(月曜日休館)
入館料
大人300円
学生200円
小中学生100円
※団体割引あり

2月20日、元上司から一本の電話が入った。「知人が良寛の臨終の時の様子を俳句に詠んだ。その句に『雪が降りしく』とあったが、良寛の亡くなった日はいつで、雪は降っていたのか、また太陽暦ではいつの日か」とのこと。良寛の亡くなった日は、天保2(1831)年1月6日。その日は大雪のため、葬儀は2日遅れの1月8日と答えておいた。そこで、良寛の辞世の句は何か気になった。よく知られていないのは、「形見として何かのこさむ 春は花夏ほととぎす 秋はもみぢ葉」という、川端康成がノーベル賞の記念講演「美しい日本の私」で紹介したもの。しかし、これは良寛の弟・由之「八重菊日記」で否定されている。ちなみに川端は、安田靉彦を介して良寛の書に感銘を受け、晩年毛筆で「遺稿雪国抄」をのこしている。また、良寛と同じように晩年「源氏物語湖月抄」を読みふけていた。



▲隆泉寺の良寛墓(長岡市)



次への100年に向けて
ロゴマークの色は通水レッド

大河津分水通水100周年のロゴマークは、長岡造形大学の学生が考案した3案を、地域の皆さんから投票してもらい、総投票数1779票のうち、827票を獲得し決定したものです。100年前の大河津分水通水を記念して植樹された「桜」をモチーフに、「大河津分水」によってもたらされた安全な暮らしが100年先も続いていくようにという意味から、ゼロを突き抜けて大河津分水が流れています。そして、歴史ある分水の雰囲気や通水にかけた人たちの熱い思い、努力を「通水レッド」と名付けた赤色で表現しています。さまざまな場面で利用しやすいように、四角や丸型などのバリエーションがあります。国土交通省や燕市の配布物などに掲載しているほか、のぼり旗や記念商品にも使われています。8月25日に通水100周年を迎える大河津分水。ロゴデータは通水100周年ホームページからダウンロードできます。使用する場合は手引きをご覧ください。今後ともさまざまな場面でご利用いただければうれしいです。



▲大河津分水通水100周年ホームページ



大河津分水 通水100周年
The Ohkazu Diversion Channel 100th Anniversary

地域おこし協力隊の奮闘日記 vol.51



こんにちは! スポーツ担当の久保です!
去る4月16日に、大河津分水さくら公園で「第33回燕さくらマラソン大会」を開催しました。私は大会事務局として大会に携わり、当日は会場内総合案内所にて選手の皆さんのサポートを行いました。
一昨年は中止、昨年は参加者を新潟県内在住者に限定しての開催だったので、私としては初めて通常開催の大会を経験することができました。「燕「さくら」マラソン大会」ということで、桜の開花状況をとても心配していましたが、当日は桜が咲いた状態で参加者の皆さんをお迎えすることができました!
来年もたくさんの参加者の人を楽しんでいただけると嬉しいです!



燕市地域おこし協力隊
久保 陽菜乃

camera view

「広報つばめ」だけでは物足りないあなたへお送りする「Web版カメラビュー」
https://www.city.tsubame.niigata.jp/keikaku/koho/2_1/index.html



●市内の出来事や、頑張っている皆さんの姿を紹介するコーナーです。



春の風物詩
萬燈が3年ぶりに!
5月14・15日 燕市宮町

感染症の影響により中止してきた萬燈が3年ぶりに復活。規模を縮小しての開催でしたが、踊りの披露が始まると多くの人が足を止めて、踊りに見入っていました。



燕さくらマラソン大会が
開催されました
4月16日 燕市五千石

県外からのランナーも参加して開催された今大会。桜が舞い散る大河津分水沿いのコースを、たくさんのランナーが気持ちよさそうに走っていました。



アイデアを形に!
記念ショップバッグ制作
5月17日 燕市役所

「大河津分水に関わるもの」をテーマに、燕ジョイ活動部がスペシャルなショップバッグ作りに挑戦! 完成予定は7月、どんなデザインが完成するのか楽しみです。



3年ぶりの開催で
特別な道中を披露!
4月17日 分水総合体育館

感染症対策を万全とするため屋内開催とした「分水おいらん道中」。絢爛豪華な衣装に身を包んだ分水太夫が付き人を従え、照明や映像で彩られた道中を披露しました。

今月のつばめっ子

●元気なつばめの子どもの様子をお届けします!



待ちに待った春遠足
みんなで仲良く出発だ!
5月13日 小池保育園周辺

天気予報は雨だったこの日。みんなのパワーで晴れ間を呼び込み、いざ遠足へ出発。田植えが終わったばかりの田んぼを観察しながら、目的地の広場に到着! 自作のブーメランやフリスビーで遊んだり、季節の草花を集めるなど楽しい時間を過ごしました。



なるほど! 長善館

長善館史料館 ☎0256・93・5400

●1833年に創設された私塾「長善館」。革新的な教育を行い、約80年の運営で約1000人の塾生を輩出しました。



▲長善館門下生
高橋竹之助
(旧中之島・杉之森
1842~1909)

高橋竹之助は、北越戊辰戦争(1868・慶応4年)では、山縣有朋(長州出身)、黒田清隆などが率いる新政府軍を先導しました。横田切れの翌年、「北越治水策」を山縣公に提出し、大河津分水の建設を提案しました。戊辰戦争時は大雨に見舞われ、両軍とも信濃川の洪水に苦勞したことが伝わっています。大河津分水の2次工事を決定した時の総理大臣・西園寺公望はじめ、山縣、黒田、新政府軍の要人たちは越後でのつらい体験から信濃川の治水の必要性を実感していたに違いありません。